

第41号

編集・発行
 富士見市日中友好協会
 富士見市鶴瀬西
 2-17-10
 (049)254-5762
<http://www.jc-sf.com/>

第19回交流バスハイク 榛名山周辺を巡る旅

＝ 2023年6月24日(土) 群馬県高崎市・渋川市 ＝

天候に恵まれた4年ぶりのバスハイクには39名が参加。梅雨の晴れ間の日を和やかに楽しく過ごしました。榛名山、榛名神社の Powerspot はたくさんの観光客で賑わっていました。参加された朝比奈久男さんに手記を寄せていただきました。

上毛三山の榛名山と 榛名湖・榛名神社 【朝比奈 久男】

久しぶりの交流バスハイクに参加させていただきました。梅雨の晴れ間、好天に恵まれて参加者39名。

私は群馬の渋川生まれ。利根川で産湯につかって身を清め、赤城おろしに晒されて育ちました。今回の行き先はまさに私のふるさとでした。

バスは予定時刻の7時20分に鶴瀬東口を出発。まず車内で事務局長の田口さんから本日のコース案内と丁寧な注意事項、そして実行委員長の呉少清さんからは中国語による説明と、至れり尽くせりでした。その後、富士見市日中友好協会会長の岩本さんよりご挨拶をいただきました。一行は所沢インターより関越自動車道を一路上州へ。途中、上里サービ(■ 以下4面に続く)



▲ 佛光山法水寺(渋川市伊香保町)の山門にて

新年のごあいさつ

富士見市日中友好協会

会長 岩本 喜直

令和元年の後半から始まり、世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は、日本だけでなく、世界中に様々の被害をもたらしました。三年余りを経て、やっと峠を越し、普通の生活が戻ってきました。その間に、追い打ちをかけるように、ロシアのウクライナ侵略戦争が起き、残念なことに二年を経ても今なお続いています。さらに、イスラエル・パレスチナ戦争が起き、一般市民が痛みしい犠牲になっています。世界の分断が深刻化し、怒り、憎悪、恨み、偏見が渦巻き、何としても世界平和を取り戻し、地球人として融和、相互信頼を希求してやみません。

令和五年は、日中平和友好条約が締結されて45周年の年でした。その言葉通り、私たちは草の根の活動を通して、条約の精神を尊び、日中の平和と友好、そしてさらに世界の平和と友好を少しでも前進させることを願っています。

今年も、当協会の事業、活動に皆様方のご参加、ご協力を切望します。

埼玉県-山西省 友好県省締結40周年記念 豆村小学児童作品展

＝ 2022年12月6日(火)～10日(土) 富士見市立中央図書館展示コーナー ＝



▲ 作品展の入口正面

富士見・上陽希望小学校が閉校となり、ふじみ野小学校の新たな交流先に五台县豆村鎮の豆村小学が2021年12月29日に選定されて1年。翌2022年2月から3月にかけて最初の作品交流が行われました。

折しも2022年は埼玉県と山西省が1982年10月27日に友好県省の締結をしてからちょうど40年。これを記念して作品展を開催しました。来場された方々からはたくさんの励ましの言葉やメッセージが寄せられました。この状況を山西省人民対外友好協会に伝えたところ、李彦専職副会長がたいそう感動され、同協会のホームページでも大きく取り上げていただきました。

富士見市日中友好協会がほぼ毎年欠かさずに行っている小学生交流は日本国内でも極めてまれなことではありますが、それでも当事者である小学生にとっては学校生活の中の一瞬のできごとに過ぎません。

それはまるで

大河に漂う一滴の水のようですが、しかし信念を持った一滴がその大河の特徴を形作り、やがては大海に注いでそこでも大きな影響力を発揮するかのように、これからの人生に関わる影響を「全くないこと」と言い切れる大人はいないのではないのでしょうか。それほどに、小学生たちは様々な大きな可能性を秘めています。

【紫関 伸一】



▲ 豆村小学の児童作品101点と写真を展示

第37回 協会年次総会を開催

＝ 2023年2月12日(日) 富士見市立みずほ台コミュニティセンター集会室 ＝

2023年2月12日午後1時30分より第37回の年次総会を開催した。コロナ禍のもと書面議決方式で総会を乗り越えてきたが、3年ぶりの対面方式での総会を開催することができた。とは言えまだまだ油断できる状況ではないため、大変残念ではあったが新春のつどいは見合わせることにした。

総会のご来賓には星野市長をはじめ、斉藤市議会議員、八子県議会議員、埼玉県日中友好協会枝副理事長、各市議会議員をお迎えして、多くの会員の出席のもと議事を進め、賛成多数により総会議案を可決いたしました。

今回は役員改選の年でもあり、新たなメンバー2名を加えた新役員を選出した。総会は予定どおり午後3時前に終了した。

【田口 和平】



▲ 3年ぶりの対面方式での年次総会

2023年度日中文化交流講座を開講

＝ 2023年4月4日(火)

富士見市立鶴瀬西交流センター

2023年4月4日火曜日午後5時に新年度の中国語教室がスタートしました。

協会の岩本会長から「中国との関係は、政治面では芳しくないが民間レベルでの付き合いは非常にうまくいっています。今後も皆さんが中国語の勉強を続けていき、日本を訪れる中国人との会話を楽しんでいただきながら、日本の良さをおおいに宣伝していただければと思います。」とあいさつがありました。

【田口 和平】



▲ 講座開講式(鶴瀬西交流センター)

富士見市国際友好協会総会

＝ 2023年5月13日(土) 富士見市立針ヶ谷コミュニティセンター展示ギャラリー

令和5年5月13日に富士見市国際友好協会の総会と懇親会を開催しました。

富士見市国際友好協会は昭和58年6月、富士見市とユーゴスラビア(現、セルビア)共和国シャバツ市との姉妹都市提携(1982年10月23日)に伴い、国際交流を推進する組織として市民やボランティア団体、法人、文化・スポーツ団体等の皆さんにより組織されました。

姉妹都市シャバツ市との相互訪問交流は2019年

に市長以下、友好協会会員の第7次訪問団を派遣、また2022年には両市の姉妹都市交流40周年を記念し、市制施行50周年記念事業としてシャバツ市代表団を招待するなどの市民交流を行っています。

現在、市内には約2,900人の外国籍市民の方が生活されており、「国際交流フォーラム」世界へのとびらや「ミニスポーツ交流大会」などの開催を通して多文化共生社会を目指した交流活動を推進しています。

【侯 紅葉】

第7回チャイナサロン 『中国残留婦人 祖母シズの生涯』

＝ 2023年6月18日(日) 富士見市立鶴瀬西交流センター集会室



▲ 第6回チャイナサロン(鶴瀬西交流センター)

第7回チャイナサロンは首都圏中国帰国者支援・交流センターの巻口清美様に「中国残留婦人 祖母シズの生涯」と題して2時間の講話をいただいた。

はじめにDVD「満蒙開拓の真実(20分)」を上映した。続いて巻口さんから、ご自身も帰国子女で日本と中国の狭間で祖母のシズさんと同様に大変苦勞をされたとお話であった。また若園義彦さんの報告文とともに戦争は二度とあってはいけないと痛感いたしました。

【田口 和平】

チャイナサロンの報告 「苦難の果て—満蒙の原野に吹いた烈風」 【若園 義彦】

あまりにも苛烈、何という悲劇か。つい70数年前に直面した人々の、苦難とその後が語られる。単に気の毒だ、可愛そうだという感情だけでよいのか。そんな提起が突きつけられた。

今回はDVD「満蒙開拓の真実」の映像に引き込まれた後、首都圏中国帰国者支援・交流センターの語り部巻口清美さんが祖母の人生と、それに重なる自分の生きてきた道を語ってくれた。(➡ 4面へ続く)

(👉 3面から続く) 国策にのせられて大陸に渡った祖母が努力の末に得た生活基盤は、ソ連軍の侵攻によって暗転する。必死の逃避行の末、4人の子どもの命のために中国人の妻となるも、望郷の思いは募る。その後一人帰国した祖母にとって子どもは忘れ難い。巻口さんも日本人の道を選ぶが、そこには残留者帰国者それぞれの明暗と苦悩に満ちていた。

国とは何か、故郷とはどこにあるのか、家族のつながりとは如何にあるべきか。この問いは重い。国策の誤り、それを糾す力、私たち国民に鋭く突きつけられた。そんな思いのする講話だった。整理され紙に書かれた記録とは違う、言葉の力によって伝えられる生きた歴史がここにはあった。

第19回交流バスハイク

＝ 2023年6月24日(土) ＝

上毛三山の榛名山と榛名湖・榛名神社 【朝比奈 久男】 (🟡 1面からの続き)

スエリアにてトイレタイムを取り渋川伊香保インターで榛名山を目の前に見ながら一般道へ。渋川市役所通りを進み伊香保温泉街を過ぎ、上毛三山(榛名山・赤城山・妙義山)の一つである榛名山の中腹、榛名神社にお参り。深い林に囲まれ気温は19℃、参道をしばらく登ると右下に沢が流れている。杉の古木が立ち並び清浄な空気をしばし吸う。岩が崩れ落ちないようにトンネル状になった参道を進む。本殿を詣でた後、バスは榛名湖へ。榛名山ロープウェイで榛名富士山頂へ登る。薄曇りで赤城山と妙義山は何とか見えたが富士山は残念ながら見えなかった。

次は日本三大うどん(稲庭「秋田」・水沢「群馬」・讃岐「香川」)のうどん茶屋万葉亭で昼食「榛名御膳」をいただく。ドライバーさんの計らいで水沢観音(天台宗五徳山水澤寺)をお参りする。バスで5分程で佛光山法水寺をお参り、台湾最大の仏教宗派だそう。長い石の階段の上に大きな石像、寺院内は広く一階から二階へと見学順路が案内され御朱印所・写経・慈悲宝殿と本堂があり、また庭の彫刻もとても可愛い。次に上州物産館にて1,000円お買物券を頂き、皆さんお土産を買う。「湖畔の宿」の歌を思い出し、渋川・伊香保インターから左に見える「裾野の長い赤城山」に別れを告げる。帰路の途中、上里サービスエリアに寄り鶴瀬駅東口に予定より早く17時20分到着。岩本会長、田口事務局長、呉実行委員長、本日参加されたみなさんありがとうございました。今度のご家族で伊香保温泉に・・・再見!



▲ 水沢観音境内を見学

ピースフェスティバル2023

手をつなごう 核兵器も戦争もない世界へ

＝ 2023年7月29日(土)～8月31日(木) 市内各施設 ＝

厳しい暑さの中、オープニング事業は7月29日と30日に鶴瀬公民館で開催されました。内容は展示、舞台、ふれあい広場、模擬店など盛りだくさんで、昨年に引き続き、実行委員会の企画展示の部屋が設けられました。そのほか広島の高校生が原爆被爆者に聞き取り描いた作品展示、放課後児童クラブの子どもたちの多くの作品など力作を見ることができました。

7月30日には戦争体験を聞く会があり、市民の方

から「戦争中の鶴瀬村～食べ物、爆撃、高射砲陣地」のお話を伺いました。協会の会員さん、理事も多数参加

8月15日(火)は「平和の鐘を鳴らそう」の企画。例年、グループで鐘を見守り続けている方たちと共に鳴らし続けています。

8月4日(金)から31日(木)までは各公民館、交流センター、コミュニティセンターで小学6年生のピースカードが展示されました。【加藤 久美子】

2023中国映画会 小さな麦の花

＝ 2023年8月20日(日)

富士見市立鶴瀬コミュニティセンターホール ＝

中国映画「小さな麦の花」は8月20日(日)に午前、午後の2回上映しました。監督・脚本はリ・ルイジュン。原題は「隱入塵煙」英語題は「Return to Dust」。

作品のテーマは貧しい農夫と障がいのある妻が2人で畑仕事に勤しみ、ロバや鶏を慈しみ、懸命に生き続け最後はあつけなく死んでいく。紛れもなく現在の中国低層社会の人びとの話です。

こう紹介をすると魯迅の「阿Q正伝」の主人公のようです。無口な夫が妻の腕に麦を花卉のように押し付けるシーンは美しい。中国で映画が公開され暫くしてSNS「T i k T o k」が火付け役で、昨今の厳しい競争社会に疲れた20～30代の若年層を中心に支持が広がり、2022年公開の中国映画のトップに躍り出たが、現在は何故か公開されていない。【加藤 久美子】



富士見市国際交流フォーラム ～2023 世界への「とびら」～

＝ 2023年10月1日(土) 市民文化会館キラ☆ふじみ ＝



▲ 協会の展示ブース前で(キラ☆ふじみ)

通常開催に戻って2年目の今回も協会は展示部門で参加。協会の簡単な歴史、日頃の事業活動の様子などを訪れた皆さんに見ていただきました。

なおフォーラム全体の司会進行を当協会の侯紅葉理事が務めました。

【紫関 伸一】

国際交流に関するアンケートを実施

ふじみ野小学校／勝瀬中学校

＝ 2023年10月 ＝

ふじみ野小学校と山西省の上陽希望小学との交流は20年以上続きましたが、この間、体験者である小学生の感想はほとんど聞いていませんでした。上陽小学の卒業生数人とは面会して話をする機会を持ましたので、今度はふじみ野小学校の児童と卒業生からぜひ意見を聞いてみたいと思い、市教育委員会の山口教育長、ふじみ野小学校の庄司校長、勝瀬中学校の内海校長に相談したところ快く賛同していただき、アンケートを実施することができました。

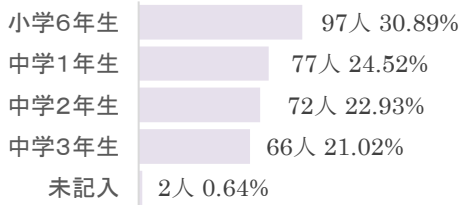
アンケートにはふじみ野小学校の6年生99人、勝瀬中学校に在籍するふじみ野小学校の卒業生211人の計310人から回答が寄せられました。全体の結

果は次ページの表のとおりですが、「交流の内容を覚えている」45.2%に対して交流の感想では「良かった」「どちらかと言えば良かった」が63.8%と、交流そのものについては好感を持って受け止められているような結果でした。また「機会があれば、自分一人でもこれから交流を始めたい」と考える人は30.6%と、青年の内向き姿勢がささやかれる中においては比較的高いように思われます。一方Q3～Q5の問いに「どちらとも言えない」と答えた人がそれぞれ約30%いたことは、少し深く考える必要があるかもしれません。

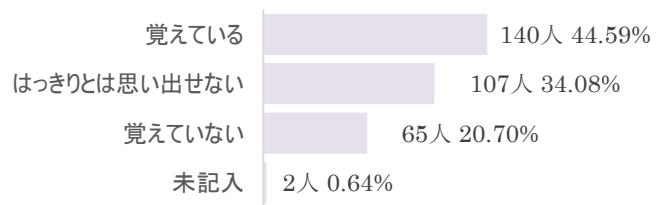
今後さらに分析を進め、これからの交流に活かしていこうと考えます。

【紫関 伸一】

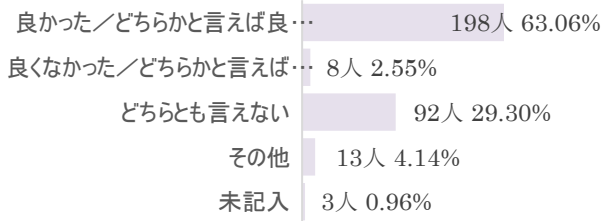
Q1 あなたの学年を教えてください。



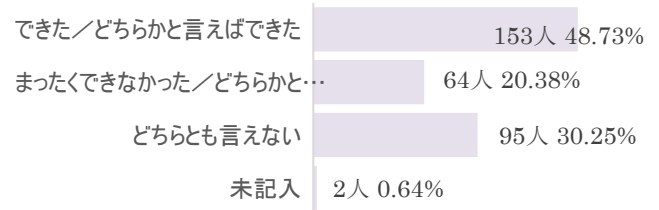
Q2 どのような交流をしたか覚えていますか。



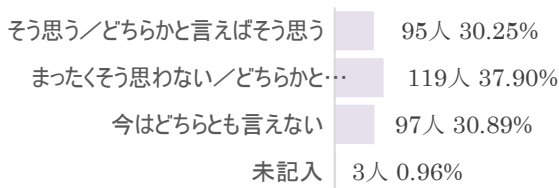
Q3 あなたはこの交流に参加してどのような感想をお持ちですか。



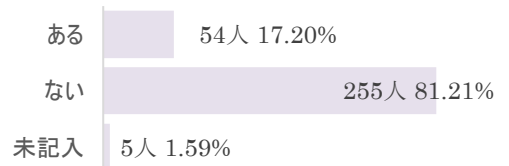
Q4 あなたはこの交流で、以前より中国を身近に感じることはできましたか。



Q5 機会があれば、自分一人でもこれから交流を始めたいと思いますか。



Q6 「今になって考えてみると…」で良いのですが、「こんな交流がしたかった」という意見はありますか。



第44回中国語スピーチコンテスト

＝ 2023年10月15日(日) NPO法人埼玉県日本中国友好協会主催 ＝

令和5年10月15日に埼玉県日中友好協会主催の中国語スピーチコンテストがさいたま市の浦和コミュニティセンターで開かれました。参加者は総数13名、

朗読部門3名でした。

当富士見市からは今回不参加でした。来年は是非とも参加を期待したいと思います。【藤井 孝容】



芋ほり交流会

＝ 2023年10月29日(日) 所沢市 呉農園 ＝

秋空のもと、日中友好協会の芋掘り交流会に初めて参加しました。参加者は全部で21人(子どもを含む)。楽しいひと時を過ごす事ができました。

午前10時30分に呉農園に集合し、簡潔に芋ほりの注意事項を確認した後、いざ！それぞれに割り当てられた畑に移動しました。

小さなシャベルや手で畑を掘り進めると、土の中から大小様々な芋が顔を出します。その度に「わーっ！」と喜び (👉 7面へ続く)

(👉 6面から続く)の歓声があがり、皆さん童心に帰った様でした。おいしいような芋をたくさん掘り当て、楽しいひと時を過ごす事ができました。私も大きな芋を五つも掘る事ができ、大満足の芋ほり交流会になりました。

芋ほり終了後は農園で記念の写真に納まったり、自己紹介などを通して友好を深めることもできました。その後、農園近くにある角川ミュージアムに移動し、会が用意して下さったランチの「お握り弁当」に舌鼓を打ちつつ、ミュージアムの散策など楽しみました。

半日という短い時間ではありましたが、思い出深い有意義な芋ほり交流会となりました。

【加藤 清】



第8回チャイナサロン

『中国から日本へ 張蓉蓉さんの10年間の挑戦と夢』

＝ 2023年11月12日(日)～ 富士見市立鶴瀬西交流センター集会室 ＝

令和5年11月12日富士見市日中友好協会主催の第8回チャイナサロンを鶴瀬西交流センターで開催致しました。講師は中国安徽省合肥市出身の張蓉蓉(チャン・ロンロン)さん(女性)です。

合肥市の紹介から始まり、彼女の略歴・日本に来た経緯・日本に来てからの暮らしぶりや現在の状況などを話されました。

上海の大学卒業後、日本人と結婚して2013年8月来日。しかしその後離婚、現在は一児の母として日本で働きながら子育てをしています。張さんは子どもと日本で暮らしていくため、努力してさまざまな資格を取得(介護初任者研修資格・医療通訳者資格・心理カウンセラーの資格等々)しました。現在は認知症専門施設で認知症患者のケアを行うとともに、中国人患者に対する医療通訳者として働いています。

張さんは日本人と中国人の人生観・価値観・生活習慣・文化の違いに戸惑いながらも、中国人としてそれを無条件に受け入れることには抵抗がありました。しかし現在は仕事を続けるために、日本における組織の風土としてそれら(職場のルール・人間関係・接客マナー・思いやりの心・患者に真摯に向き合う姿勢等々)を理解し認めるようになったと言います。

言葉の壁を乗り越え、日本を愛し、忙しいけれど充実した毎日を送ってられるようで、気がついたら心の中で励ましの言葉を送っていました。

【藤井 孝容】



中国料理講習会

～蓮根の水餃子～

＝ 2023年11月23日(木)

富士見市立鶴瀬西交流センター ＝



コロナ禍でしばらく休止していました中国料理講習会が久しぶりに再開致しました。侯先生と王さんのご指導による水餃子はおふたりが慣れた手付きですらすらと作り出す肉厚の皮がポイント。プリプリとした舌触りは、餃子とは餡でなく皮が主役なのだと再認識しました。

たっぷりの唐辛子に熱い油を豪快に注いで作る手作り辣油は香り高く、刺激は思ったよりマイルドで、何より味わい深く餃子を引き立てます！（家にある「ラー油」とはぜんぜん違う）

侯老师，王小姐，谢谢您的指导！

古澤さんのソーメンカボチャ、とても珍しく美味しくいただきました。ありがとうございました。 【山口 文博】

日中文化交流講座

中国語を学びながら、日本と中国の文化を
考えます。

中国語初挑戦の方、大歓迎!!

日 時 月3回(火曜日)

☆2024年度は4月2日(火)開講

入門クラス 午後5:00～6:45

初級クラス 午後7:00～8:45

会 場 富士見市立鶴瀬西交流センター

会 費 月4,000円

入会金 2,500円(日中会員は不要)

コーディネーター 侯紅葉さん

お問合せ 田口(049-254-5762)

会員の皆様へお願い

会員の皆様には日頃より物心両面にわたり支えとなっていていただいていることに感謝を申し上げます。皆様ご案内のように協会のさまざまな事業活動はおもに会員の皆様からお納めいただく会費によって賄われています。会費収入無くして事業計画は成り立ちません。

つい先日もある会員さんから「今年の会費は納めてありましたか?」と問い合わせがあり、調べたところまだ入金になっていなかったのもその旨をお伝えしたところ、さっそくご入金いただきました。このお願いをご覧になって入金漏れにお気づきになられた方がいらっしゃいましたら、今からでも払い込みいただくと有難いです。もし記憶が定かでない方は事務局にお尋ねください。

また、新規会員の入会の働きかけもよろしくお願いたします。